

山桜を植える

丹治 計二 福島県福島市 八十歳

福島盆地の南西にポツコリと張り出した小山がある。大森城山（以下城山と省略）だ。花見の名所となっている。

城山には「城山を愛する会（以下会と省略）」と言う故郷の山を気持ち良く訪ねてもらうために先人から引き継いだ組織がある。会には以前から咳かかれていた課題があった。城山は花見の名所でも、その時は人で埋まるほどの賑わいも花が散れば急に淋しい。数百本の桜が染井吉野のため、花は一斉に咲けばたちまちに散ってしまう。

転機になったのは、東日本大震災、原子力発電所の水素爆発に伴う放射能汚染、除染のため城山も表土が剥がされた。竹藪が払われて明るくなった広大な斜面が現れた。そこは民有地だったため、放置されていた。

会の中で提案があった、山桜を植えよう。今なら会の計画に反対の地主はないだろう。伐採後のチャンスを生かせば、会の力でも実施できることだった。

会は毎年六月に「城山を愛する集い」を実施している。除染後、会は集いで子供たちと一緒に九年で七十四本の桜を植えた。山桜の寿命は長い。山桜が大木となるころ、会のみんないない、子供たちその子供が花を見る、それで良い。植樹は夢を見ることが。

城山はほのぼのとした山桜が彩いろどりも時期も違えて、故郷の人の心を染めて欲しい。